

新検定教科書における Sustainable Development Goals (SDGs) の扱い

園田 敦子

キーワード

中学校 学習指導要領 検定教科書 外国語 SDGs (Sustainable Development Goals)

要旨

国連加盟国の全会一致で採択された持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) は、政治や経済を支える大人だけでなく、未来を担う子どもたちとともに人類全体で達成すべき長期的目標である。本稿は、2021年度より新指導要領に対応する形で発刊された中学校検定教科書において SDGs テーマがどのように扱われているかを探索的に分析するものである。分析においては今年度から中学校において導入されている 6 社 18 冊の全教科書を使用し、教科書内容と 17 つの SDGs が目指す分野を照らし合わせてコーディングした。分析の結果、最も扱われる頻度が高いテーマは目標 16「平和と公正」であった。SDGs17 の目標が、どのような内容で教材化されているか、それぞれの目標について代表的な例を挙げながら共通点を見出していく。

1 はじめに

学習指導要領は、およそ 10 年を目安とし、その時々の世界や社会環境の変化および子ども達の実情を鑑みて改訂されてきた。中央教育審議会でも重ねられた議論をもとに新しく改訂された指導要領の中では、「予測困難な時代に、一人ひとりが未来の創り手となる」という言葉が時代の要請に合わせたキーワードとして掲げられた (文部科学省, 2016)。2020 年に発生し終息の見通しが立たないコロナの感染拡大、国連をもってして「人類にとって非常事態 (Code Red for Humanity)」(AP news, 2021) と言わしめた加速の止まらぬ地球温暖化など、現代社会を取り巻く諸問題に対して柔軟に対応する力、予測困難な未来に立ち向かう力は、まさに時代が要請する力といえる。

新指導要領の改訂と時期を同じくして、2015 年の国連サミットにおいては、社会・環境・経済をめぐる課題を世界全体で共有するための 17 の持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) が発表された。新しい指導要領の総則 (文部科学, 2017a) では、未来を担う児童生徒が一人ひとり豊かな人生を送ることを願いつつ「災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応」する力

を育成することが要点として盛り込まれているが、SDGs は、この「現代的な諸課題」を 17 の観点で具体的に示しているものであるといえる。

本稿では、新しい検定教科書が、国際社会に生きる一員としての理解および自覚を促すために、どのような国際的テーマを扱っているかを明らかにする。教科書を分析する枠組みとして、国連サミットにおいて設定された 17 の持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）を使用する。中学教科書の本文および付随する質問、またタスクやプロジェクトなど、全ての内容を SDGs の視点からコーディングし、それぞれの目標の出現頻度および教科書での扱われ方を分析する。

2 新指導要領における「世界との関わり方」

指導要領の改定に合わせ、2021 年 4 月に発刊された中学校検定教科書は、文部科学省が策定した指導要領の理念に基づいて作成されている。新しい指導要領の特徴の 1 つは、OECD（2015）の示す 3 つの力（Knowledge, Skills, Attitudes and Values）に同期する形で、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性等」という 3 本の柱が理念として提示されていることである。

この中の「学びに向かう力、人間性等」では、児童生徒がよりよい人生を歩むために、主体的に社会や世界と関わることの重要性を指摘している（文部科学省、2015）。これらの目標を具体的に実現する手段として、教科書は重要な役割を負っている。この教科書の中で、どのような題材を扱うかについては、学習指導要領「指導計画の作成と内容の取扱い」の中に明記されている（文部科学省、2017b）。

英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

- (ア) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。
- (イ) 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。
- (ウ) 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）p.152 抜粋

(ア) (イ) では、教材を通して、生徒に世界の文化や考え方の多様性を理解させることを促している。同時に (ウ) においては、不確実かつ複雑な現代に生きる地球市民として、国際的な諸問題を生徒に自覚させることも教材作成および指導の際に留意すべき観点だと示している。

3 Sustainable Development Goals が示す国際的な課題

このように、指導要領においても、学校教育を通して、生徒が広い視野から国際理解を深めることが期待されていることが分かる。しかしながら、経済・社会・環境といった幅広い分野の中の具体的にどの側面を題材として扱うべきかといった指針は明示されていない。本稿では、この曖昧な部分に光を当てるべく、新しい教科書がどのような国際的な課題や事象に目を向けさせるものであるかについて「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals、以下 SDGs）」を分析の枠組みとして調査する。SDGs を本分析における枠組みとして使う根拠は、SDGs が国際的な諸課題を偏重なく取り上げた上で具体的なカテゴリーに分類しているという点、また国連加盟国 193 カ国での議論を経て全会一致の合意を得ているという点から、網羅性および信頼性が確認されているということにある。

SDGs の基本理念は、発展途上国だけの話ではなく、先進国を含めた全ての国が、老若男女、宗教や文化の違いを問わず、誰ひとりも取り残されることなく（No one will be left behind）持続可能な世界を実現することにある。17 の目標は、環境・社会・経済上の問題を包括するものであり、かつ関連性を持つものである。表 1 に国連が作成したアイコン、その下に各目標の完結なスローガンおよび説明を記す。17 の目標はそれを達成するためのさらに細分化した「169 のターゲット」に支えられているが（United Nations, 2019）、紙幅の都合上、細かいターゲット目標については必要に応じて本文中で言及するに留める。



表 1. SDGs における 17 の目標（United Nations, 2019）

目標 1 貧困をなくそう：あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。

目標 2 飢餓をゼロに：飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。

- 目標 3 全ての人に健康と福祉を：あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
- 目標 4 質の高い教育をみんなに：全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
- 目標 5 ジェンダー平等の実現：ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女子の能力強化を行う。
- 目標 6 安全な水とトイレを世界中に：全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
- 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに：全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。
- 目標 8 働きがいも経済成長も：包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。
- 目標 9 産業化と技術革新の基盤作り：強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。
- 目標 10 人や国の不平等をなくそう：各国内及び各国間の不平等を是正する。
- 目標 11 住み続けられるまちづくり 持続可能な都市：包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
- 目標 12 つくる責任つかう責任：持続可能な生産消費形態を確保する。
- 目標 13 気候変動への具体策：気候変動及びその影響を軽減するための対策を講じる。
- 目標 14 海の豊かさを守ろう：持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
- 目標 15 陸の豊かさを守ろう：陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。
- 目標 16 平和と公正を全ての人に：持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
- 目標 17 パートナリシップで目標を達成しよう：持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

(国際連合広報センター公式 HP より)

これらの目標は 2015 年 9 月の国連サミットにおいて全会一致で採択され、日本でも政府を中心に経済界や教育界等において達成に向けた取り組みが進められている。各国の達成および進捗状況は毎年報告され、目標の達成度は 17 項目それぞれにおいて「緑色：目標達成 (SDG achievement)」、「黄色：課題が残っている (Challenges remain)」、「橙色：重要な課題が残っている (Significant challenges remain)」、「赤色：主要な課題が残

っている (Major challenges remain)」という 4 段階の色別で評価される。2021 年現在での日本の評価は 165 カ国の中で 18 位である (Sachs et al., 2021)。表 2 において実線で囲った目標「5 ジェンダー平等」「13 気候変動への具体策」「14 海の豊かさ」「15 陸の豊かさ」「17 パートナーシップ」が、いまだ主要な課題が残っていると評価されている。他にも、破線で囲った目標 (2、7、10、12) については、いまだ重要な課題があり、点線で囲った目標 (1、3、6、8、11) は、深刻度は下がるものの、やはり課題が残っていると評価されているものである。一方、「4 教育」「9 産業・技術」「16 平和と公正」について目標を達成していると認められている。

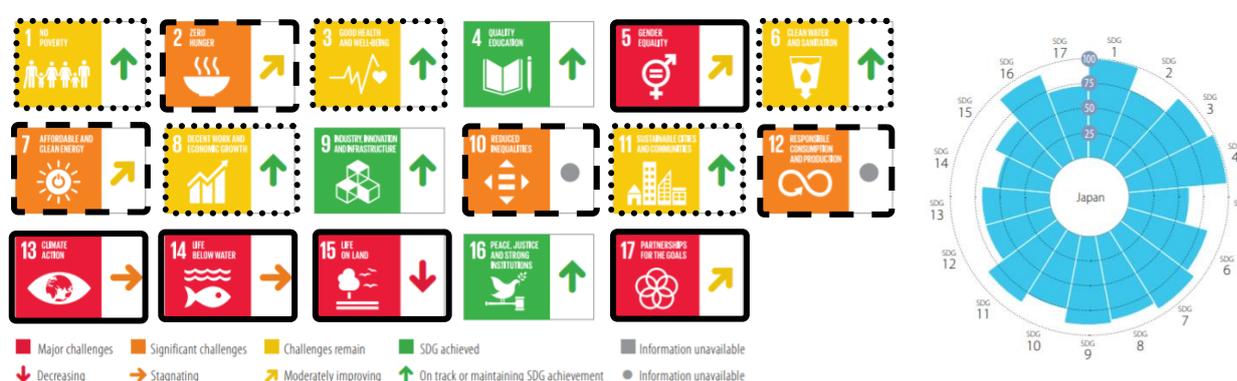


表 2. SDGs 各目標についての日本達成度 (United Nations, 2019)

ここまで、世界が抱える諸課題および日本の現状について、SDGs の枠組みを使い概観してきたが、次節においては、教科書ではどのような SDGs 的テーマを取り上げているかについて分析をすすめる。

4 検定教科書会社の扱う「国際的な課題」

4-1 使用教科書

分析においては、2021 年より使用される検定教科書 18 冊を全て使用した。中学 1 年から中学 3 年まで、6 種類合計 18 冊を下に記す。

NEW HORIZON English Course 1-3 (東京書籍、2021)

Here We Go! ENGLISH COURSE 1-3 (光村図書、2021)

NEW CROWN English Series 1-3 (三省堂、2021)

SUNSHINE ENGLISH COURSE 1-3 (開隆堂、2021)

ONE WORLD English Course 1-3 (教育出版、2021)

BLUE SKY English Course 1-3 (啓林館、2021)

教科書は「ユニット」「レッスン」「プログラム」といった 6 ないし 10 の章から構成されているが、章間や巻末に **Further Reading / Let's Read** といった名前で読解素材が添えられていることがある。ほかにも 1 から 2 ページを使用して、あるテーマに基づいた「ディスカッション」「リスニング」「図表やポスターを読む」等の活動が挟まれていることもある。このような活動を全て分析対象とした。

4-2 分析方法と手順

18 冊の教科書内容を SDGs の記述と照らし合わせ、17 のどの分野に属するか判断し番号を付すというコーディングを行った。教科書のユニットは多くの場合、複数の頁にまたがる形で 1 つのテーマを深化させている。絶滅の危機にある動物をテーマとしたユニットの展開例としては、導入として登場人物が動物をみながら対話する「会話文」で問題を身近なものとして捉えさせた後、絶滅の危機にある背景について説明する読み物が続き、それをもとに生徒同士で考えを述べ合うような活動がある。このような場合に、それらを 1 つのユニットとして「目標 15: 陸上資源」を扱う回とし、1 回とカウントした。

また、テーマの本質が複数の目標に関連する場合は、1 つのユニットにおいて複数の SDG 番号を付した。例えば、「ユニバーサルデザイン」を主題にしたユニットでは、誰もが使いやすいデザインをすることで障がい者や高齢者も利用しやすいまちづくりにつながるということが伝えられているが、これは目標 10 のターゲット 2「年齢、性別、障がいにかかわらず、全ての人が、社会的に取り残されないようにする」および目標 11 のターゲット 3「だれも取り残さない持続可能なまちづくりをすすめる」の両方に関わるものとして目標 10 と 11 の両方で 1 カウントした。

また、教材によっては、指導者の扱い方次第で SDGs の問題に関連させて指導できる可能性もあるが、文章そのものとしては訴求力が低いと判断したものはカウントに含めなかった。具体例として、複数のユニットで扱われていた、世界の文化遺産についての分析例を挙げる。目標 11 では「世界の文化遺産や自然遺産を保護し、保つための努力を強化する」という項目があるが、SDGs としてテーマを扱う際の「明示性」という点で、大別して 3 種類あった。

レベル 1 (存在を示す) : ウルルや富士山の美しさや大きさを説明し、世界遺産であることに言及する教材

レベル 2 (存在と問題を示す) : 富士山など世界遺産であることを説明しつつ、観光等によって十分に保護されない事実も説明している教材

レベル 3 (存在と問題を示し、考えさせる) : 世界遺産と観光の問題を提示しつつ、自分たちがどのように行動できるか考え、話せさせる教材

今回のコーディングでは、レベル 2 と 3 のみを目標 11 に該当するものとして数えた。もちろん、レベル 1 のような世界遺産の紹介だけの内容であっても、授業内で題材をきつ

かけとして「なぜ保護する必要があるのか」「どのような課題があり、どういった私たちの努力が必要か」といった深め方ができる余地があることを認める。しかし本稿においては、レベル 1 は授業の創意工夫が必須とされるという点で教員個人に委ねる部分が大きいと判断し、カウントすることを控えた。

コーディングについては、9 月下旬に自身で行った後、11 月中旬に再び筆者自身でコーディング作業を行い、検者内における評価の一致度を算出した。91%の一致があり、合致しなかった箇所については、教科書会社の解説資料や SDGs のより詳しい活動例等と照らし合わせることで最終的な決定を行った。

5 結果

5-1 17 目標の出現頻度

検定教科書において、それぞれのテーマが扱われた回数は表 3 の通りである。前述の通り、テーマの性質によって複数の目標を包摂している場合もあるが、18 冊の中で SDGs の目標に関連した内容の扱いがあったユニットや読解資料は 77 か所（重複を考慮に入れない場合の総計は 153）であった。1 年生の教科書では 5 か所、2 年生では 26 か所、3 年生では 46 か所で SDGs に関連する内容が扱われていた。

テーマとして最も扱われる頻度が高かったものは目標 16「平和と公正」であり、どの教科書においても、過去の戦争・差別の歴史から平和と平等の大切さを考えさせていた。一方で、目標 2「飢餓をゼロに」や目標 5「ジェンダー平等」、目標 7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」について扱われた回数は全教科書を通して 5 回未満であった。

達成済の目標			課題が残る目標					重要な課題が残る目標				主要な課題が残る目標				
目標 4	目標 9	目標 16	目標 1	目標 3	目標 6	目標 8	目標 11	目標 2	目標 7	目標 10	目標 12	目標 5	目標 13	目標 14	目標 15	目標 17
教育	技術	平和	貧困	健康	水	労働	まち	飢餓	エネルギー	平等	生産消費	ジェンダー	気候変動	海	陸	パートナーシップ
9	14	18	5	9	5	13	17	3	3	17	7	3	7	6	11	6

表 3. 18 冊の検定教科書において各 SDGs テーマが扱われた回数

表 3 では、日本国として目標を達成しているものを左に配置し、より深刻な課題が残っているカテゴリーを右に配置している。最も扱われる頻度が低かった目標 3、5、7 はどれも「主要な課題」「重要な課題」が残ると評価されている項目であるが、必ずしも達成度の低いものが教科書内で優先的に扱われているわけではないことも読み取れる。

5-2 17 目標の教科書での扱われ方

次に、それぞれの目標が、どのような人やエピソードを通して生徒の理解を促しているかを詳述する。各目標について、代表的な具体例を 2 つ以上取り上げて記述する。具体例

を挙げる際には、6社の簡略化した教科書名の後に数字を付したものを出典として付している。教科書名の後の数字は巻数であり、1は中学1年生、2は中学2年生、3は中学3年生用のテキストであることを示す。

目標1 (貧困をなくそう)

貧困ラインを下回る状況にある生活困窮者は国内にも存在し、適切な支援が必要とされるが、教科書において扱われた「貧困」のテーマは、日本ではなく世界の貧困に目を向けさせるものであった。中学生も身近に買えるチョコレートを題材にし、その背景にはカカオ農園で不当な低賃金で働かされるために貧困から抜け出せない人々がいることに気づかせる読み物 (Sunshine 3)、バングラデシュでの貧困を目の当たりにし、現地の良質な麻を利用しバッグを作る会社を立ち上げた日本人女性の取り組み (Here we go! 2) などが具体例として挙げられる。前者では、具体的に自分たちができることとして「フェアトレード」製品に目を向けさせ、日本語での解説文も添えていた。後者の例のように、10代や20代など比較的若い年齢から他国の貧困に目を向け行動を起こした若者に焦点を当てる形でのアプローチは複数の教科書で確認された。

目標2 (飢餓をゼロに)

貧困であることは直接的に飢餓につながる。したがって、扱われた素材3つのうち2つは上述した目標1と重複している。世界を100人の村になぞらえると22人が過体重である一方で12人が栄養不足の状態にあるというデータを読み取らせる活動 (Here we go! 3)、戦時中の幼少期に飢餓で苦しんだ自身の経験から、病に倒れて亡くなるまで戦争と貧困に苦しむ人々のために支援を続けたオードリー・ヘップバーンの物語 (One World 3) が例として挙げられる。飢餓をテーマにしたユニットは3回であり、他のゴールに比べて、扱いの少ない分野であった。

目標3 (全ての人に健康と福祉を)

SDGsでは、スポーツが精神的な安定および健康に貢献するとしている (国際連合広報センター、2016)。また、予防ができる原因で命を落とすことがないようにすることも本目標の一つである。他にも、予防接種の普及や安全な出産の保障など、目標3に関連する領域は多岐にわたるが、教科書においては、大別して3種類の視点で扱われていた。1つ目の視点としては、国枝慎吾などの日本人選手に焦点を当てつつ、障がいにかかわらずスポーツは誰もが楽しむことができるものであると同時に、人を力づける力があるということに気づかせるものである (New Horizon 3)。2つ目は原爆が即時的に命を奪うだけでなく、人々の健康を損なうものであることを学ばせるものである。広島で被爆したことで命を落とした12歳の佐々木禎子さんをテーマにした教科書が3冊あった (Blue Sky 3、New Crown 3、Sunshine 2)。3つ目の観点は、現在の国内外での健康を損なう問題を取り上げ

たものであり、短い睡眠時間や長時間のスマートフォン使用が体にとって悪影響であることを啓蒙する対話文（Sunshine 3）が例として挙げられる。

目標 4（質の高い教育）

日本は義務教育という制度のもと、子どもたちが教育を享受することができている国であるといえる。中学校の教科書の中では、学校に行くことや学ぶための文房具が「当たり前」ではない世界の国々の子どもに焦点を当てていた。動物に襲われる危険を冒しても 2 時間の通学路を歩くケニアの少年を通して、学校に行く目的を考えさせたり（Sunshine 1）、学校としての建物がない環境で学ぶアフガニスタンの小学生へランドセルを送る活動を読み、自分たちにできる金銭以外の寄付のあり方を話し合わせたりする活動（New Horizon 3）などが例として挙げられる。

目標 5（ジェンダー平等の実現）

取り上げられる頻度が目標 2、7 と並び最も少なかった分野が本目標「ジェンダー平等」である。扱われた題材は、タリバンの支配下の中で、女性が教育を受けることが許されないというマララ女史のスピーチ（Sunshine 3）、そして女性が会議に出席することすら許されなかった男社会の中で、初めて NASA に派遣されたアフリカ系アメリカ人の活躍（One World 3）であった。男女共同参画は日本が遅れをとっている分野であるが、男女がともに子育てと社会貢献に関わることができる社会について議論する素材は 1 つにとどまった（One World 3）。ここでは、男女が協同で家事・育児を行っているスウェーデン事情を知った主人公たちが、「私のお父さんにも見てほしい」「僕も将来は夫婦で協力し合いたい」などと話す場面があった。

目標 6（安全な水とトイレを世界中に）

安全な水を国民が享受できるという点においては、日本はほぼ目標を達成できているといえるが、目標 4 の教育と同様に、現代においてそれが達成されない国もいまだ存在している。教科書では、途上国において安全な水を得ることができるようにする技術（目標 9）とあわせて紹介されていた。泥を含む水が、ストローを通すことで飲料可能な水になるという技術（One World 2）や、雨や大気中の霧を集めるといった手法で毎日 100 リットルの飲料水を供給できるワルカ・タワーというプロジェクト（New Crown 2）のほか、長年の渇水問題に苦しむ台湾において水利事業に人生を捧げた八田與一の貢献（New Horizon 3）が紹介されていた。

目標 7（エネルギーをみんなに そしてクリーンに）

現在、エネルギーに対する日本が化石燃料に依存する割合は 85%以上を占めており（United Nations Environment Programme）、我が国においても改善の余地が認められ

る分野である。この問題について 2 冊の教科書がユニット全体を使って説明していた。化石燃料がなぜ問題か、また再生可能エネルギーとは何かといったエネルギー事情についてスピーチしている登場人物の原稿を読ませた後に、日本が化石燃料を使う理由などを聞き取らせる活動をさせたり (One World 2)、各エネルギー資源の使用割合だけでなく、一次エネルギーの自給率にまで踏み込んだ上で様々なエネルギー源の長所や短所について考えさせるユニット (New Horizon 3) もあった。目標 3、5 と共に扱われる回数が最も少ないテーマではあるが、上述のように、扱っている場合には 1 ユニットとして十分に時間をかけ日本のエネルギー問題と省エネルギーについて考えさせるようにしていることが分かる。

目標 8 (働きがいも経済成長も)

この目標では「働きがいのある仕事を増やす」「仕事も通学もしていない若者たちの数を減らす」「児童労働をなくす」など、国内外で対策を講じるべき多岐の課題が存在している。教科書では、13 か所において目標 8 のテーマが扱われていた。中学はキャリア形成について考えを深める時期であり、かつ職場体験する時期と重なる。職場体験をする主人公が、オンラインでの購買行動によって町の実店舗が減少しているといった事実を店主から聞かされるといった場面や (One World 2)、「なぜ働くのか」を登場人物たちがディスカッションする (One World 3) 場面などがあった。また、高齢化する日本社会の中で、地域特産の葉を販売することで高齢者の働きがいを促進している町の紹介もあった (Blue Sky 3)。AI やロボットといった技術革新と関連させて、ロボットを媒体として身体の不自由な人が働くことができているといった事例を紹介するユニット (Here We Go! 3) や、反対に AI が発達することで自分のなりたい職業が不要になってしまうのではないかと、いった不安に寄り添うユニット (New Horizon 2) もあった。

目標 9 (産業化と技術革新の基盤づくり)

本目標は、「人に役立つ技術の開発」「災害に強いインフラの構築」「研究開発の促進」などが主要なテーマとして位置づけられている。「人に役立つ技術の開発」という観点では、人間の声を聞き取って手話に変換するロボットを作った中学生の取り組み (Blue Sky 2) や汚水を飲料水に変える技術 (One World 2) が紹介された。「災害に強いインフラの構築」では、市に空き地があるという仮定をして、どのような施設がふさわしいか議論させる活動があった (New Crown 3)。「研究開発」の中で頻回に扱われたキーワードは「AI」であった。AI ができる技術とその必要性だけでなく、AI の短所や、AI を活用する上で重要なことを考えさせる教科書 (New Horizon 3) もあった。

目標 10 (人や国の不平等をなくそう)

年齢・性別・障がい・人種等にかかわらず、全ての人が取り残されないようにするというこの目標は、ジェンダー平等 (目標 5) や、全ての人が教育を受ける権利 (目標 4)、生ま

れた地域の違いで貧困や飢餓に苦しむ人を減らす（目標 1、2）ための取り組みと重なっており、17 か所が本目標に関連するとカウントされた。人種差別に対して非暴力で闘ったキング牧師（New Crown 3）やガンジー（New Horizon 3）、また迫害されていたユダヤ人に対して命のビザを発給しつづけた杉原千畝の道義的決断（Here we go! 3）など、差別撤廃に尽力した人物に焦点が当てられた。マララ女史（Sunshine 3）をはじめとした若者のスピーチや活動を通して、平等が現在においても実現されていない現状を学ばせる読み物のほか、誰でも利用することができるユニバーサルデザインを意識したまちづくり（Blue Sky 3、New Horizon 2）や、障がい者が外出するために欠かせない介助犬（One World 2）を紹介することで、現代社会において「平等」を促進する観点もあった。

目標 11（住み続けられるまちづくり 持続可能な都市）

我々が住むまちが持続可能であるということは、「災害時にも取り残されることのないまちづくり」を目指した防災面での準備やインフラ整備、また大気汚染やごみ排出などで環境に負荷を与えない生活という配慮も含む。上記をふまえて、「市の空き地をどのように活用するか」について生徒に議論させる活動や（New Crown 3）災害時の活動拠点として工夫がなされている防災公園の機能の紹介（Blue Sky 3）、日本で地震を経験した外国人の体験談を取り上げて問題点に気づかせる素材（New Horizon 3）があった。海外に目を向け、地球温暖化によって住まいが失われつつある問題を抱える島や（One World 1）、観光者増加によって発生するベニスのオーバーツーリズム問題（New Horizon 2）を解説している教科書もあった。

目標 12（持続可能な生産と消費）

「作る責任・使う責任」とも要約される目標 12 では、消費を終えた後のプラスチックをはじめとしたゴミ問題や、過剰生産による食品ロス問題が扱われている。日本が世界で 2 番目に多いプラスチックごみ排出国であるというデータを示しつつ、自分たちに何ができるか考えさせるユニットや（Here we go! 3）、海洋に漂うごみの多さを何とかしようと 16 歳のオランダ人青年が開発した網の説明文（Sunshine 3）、外食先での持ち帰り袋（doggy bag）の是非についての登場人物がディベートを行うユニット（One World 3）など、中学生に自身の消費行動を考えさせる記事が扱われた。

目標 13（気候変動への具体策）

本目標は、気候変動を緩めるための具体的な対応を講じるだけでなく、啓発的な教育および、起こりうる自然災害に備えることも目指している。教科書においては、沈む島や浸水した道を歩く人々、溶けつつある氷の上にいるアザラシといった写真で問題を可視化しながら、気候変動を緩和するために自分たちができることを考えさせるユニット（One World 1）や、自分たちが普段している環境にやさしい行動を振り返らせる活動が提示さ

れた (Here We Go! 3)。また、1992年に12歳の少女が環境サミットで行ったスピーチを通して、地球環境の現状を考えさせる読み物もあった (Here We Go! 3)。

目標 14 (海の豊かさを守ろう)

国連は、毎年 800 万トンものプラスチックが川や排水溝から流れ海洋を漂っていることについて危機感を促しているが (United Nations Environment Programme)、教科書においても、人間が無責任にゴミを捨てること、ひいてはプラスチックを必要以上に使うことが海の多様性に影響を及ぼしていることに気づかせ配慮を促す内容が見られた (Here We Go! 3、Sunshine 3)。したがって、本目標に該当するユニットの半数は目標 11「つくる責任 つかう責任」で前述した内容と重複している。次の目標 15「陸上資源の保護」と合わせて、現在、陸および海において絶滅の危機にある生き物が、人間のこういった行為で危機にあるのか (例：乱獲や森林伐採) について、リスニングを通して理解させる活動もあった (Here We Go! 3)。

目標 15 (陸の豊かさを守ろう)

森林減少や砂漠化の抑制、生物多様性の回復や保護が達成課題として挙げられるのが目標 15 である。教科書では、パンダやゴリラなど、中学生にも親しみのある動物を例に、気候変動や狩猟、土地開発などによって絶滅の危機にあること (New Horizon 3)、道路の開発によって動物の生息地が分断されてしまうこと (Blue Sky 3) などを知り、人類以外の生物と共存することを意識させる内容であった。また、自然保護の観点から、山や森に入る時はゴミを後に残さないことを啓蒙する内容 (New Crown 1、Sunshine 2) も扱われていた。

目標 16 (平和と公正を全ての人に)

全ての人が争いのない社会で差別されずに生きる権利を謳うものが本目標である。日本は、第二次世界大戦下において、兵役に出た大人だけでなく多くの子どもたちが命を失った歴史を持つ。また、日本国憲法の三原則の 1 つは「平和主義」であり、教育基本法第 1 条においても、「平和的な国家及び社会」を形成する資質を備えることを教育の目的として明記している。SDGs という枠組みだけではなく、このような学校教育の本質とも共鳴する本目標は全ての目標の中で、扱われた頻度が最も高かった。教科書会社 6 社の全てが、広島での原爆を取り上げ、今を生きる若者として平和を保つことの大切さを資料の中で読み取らせていた。本目標は、誰もが基本的な自由を侵されないという基本的人権の確立も目指すものである。この観点から、黒人の人権のために尽力したキング牧師、ネルソン・マンデラやステイービー・ワンダーの活動が紹介された (Sunshine 2)。現在でもテロの続くパキスタンにおいて、銃の代わりに全ての子どもに本とペンを与えることを訴えるマララ女史の半生も扱われた (Sunshine 3)。

目標 17 (パートナーシップで目標を達成しよう)

この目標では、SDGs を達成するための実施手段を強化し、そのために政府、市民社会、科学者、学界、民間のコミュニティが協力することを強調している。具体的な目標としては ODA の履行や南北協力、途上国のための資金強化などがあり、個人レベルで「わたしたちに何ができるか」という問いに対しては、国連広報センター (2019) は、SDGs の達成に向けた行動を働きかける団体への加入および結成を提案している。差別のない貿易を促進するという点においては目標 1 で述べたフェアトレード (Sunshine 3)、国を超えた支援という点では同じく目標 1 で述べたバングラデシュと日本経済をつなぐ女性の経済活動 (Here we go! 2) の内容がこの目標に関連するとも考えられる。ODA といった専門的用語は使用しないものの、国を超えた協力が必要であることを強調しながら、募金活動や食料自給率、輸出入額の増加といった資料を提示するユニットもあった (New Horizon 3)。

教科書会社の中には、自己紹介等にユニットを通して他者を知ること本質的には「パートナーシップ」の一部だと解説しているところもある (三省堂, 2021)。このような考え方に基づけば、助け合いや他者理解を含む教材、またコミュニケーション活動そのものが全て目標 17 の領域でもあると考えられる。しかしながら、本研究においては、この広い意味でのパートナーシップはカウントしなかった。

6 考察とまとめ

中学の指導要領では、言語使用の場面として「日常的な話題」および「社会的な話題」が想定されているが (文部科学省, 2017b)、各目標の実例からも読み取れるように、SDGs のテーマを扱う頻度は学年を経るにしたがって多くなっていることも分かった。これはすなわち、扱うテーマが学年を経て「日常」から「社会」へ視点を広げているということであると解釈できる。

そのように考えると、2022 年 4 月に新しく発行される高等学校の教科書では、より国際的問題について扱う頻度および深度が強化されると期待される。また、英語と同時期に全教科の教科書が新指導要領に合わせて発刊されており、SDGs の多くは公民や地理、道徳といった他教科で扱っていることが十分期待される。外国語の教科書においては目標 5 「ジェンダー平等」や目標 3 「飢餓をゼロに」目標 7 「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」は扱われる頻度が低かったが、テーマの学習がなおざりにされていると結論づけるよりも、今後発刊される高校教科書および他教科での扱いにも目を向けて分析することが適切であろう。

教科書とは授業実施におけるもっとも中心的な教材であり、2 節において前述した通り、指導要領に込められた学びの理想を具現化したものであるといえる。英語の 4 技能 5 領域を育てるために必要な知識・技能を身につけることを大前提としながら、本稿の主題である国際的な課題を理解させるだけでなく、同時に、生徒の心情を育てたり、文化への関心を高めたりすることも期待されている。このように教科書に求められることが多岐にわた

の中で、18冊の中で77か所において生徒の理解を促進する題材が盛り込まれたことは、教材を制作する側の努力と研究の結果であるといえる。

新しい指導要領の求める要素が具現化されたこれらの教科書が真に生きるのは、英語教員がそのメッセージを的確に受け取って授業を展開し、吸収しやすい形で生徒に届く時である。山本（2021）は、SDGs についての「情報を教える」だけの授業では、生徒に当事者意識は芽生えないと指摘しつつ、授業を通して共に考え、自分ごととして解決しようとする向き合う活動の大切さを強調している。分析手順の中でも触れたように、多くの教科書が、学んだことをもとに諸問題と自分の生活を重ね合わせて考えるような問いを投げかけている。世界のどこか遠くにある出来事の知識を増やすために教材は開発されたわけではない。地球の未来を担う子ども達が、自分たちが変えるべきだという必要性、そして変えることができるのだという有能感をもつことができる授業が求められている。

文献

経済産業省資源エネルギー庁（2020）「2020-日本が抱えているエネルギー問題（前編）」

https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/energyissue2020_1.html

国際連合広報センター「持続可能な開発目標」（閲覧日：2021年11月29日）

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/sustainable_development_goals/（閲覧日：2021年11月29日）

国連広報センター（2016）「スポーツと持続可能な開発（SDGs）」

https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/18389/（閲覧日：2021年11月29日）

国連広報センター（2019）「パートナーシップで目標を達成することはなぜ大切か」

https://www.unic.or.jp/files/17_Rev1.pdf（閲覧日：2021年11月29日）

三省堂（2021）「内容解説資料 令和3年度版 New Crown SDGs 関連資料」

https://tb.sanseido-publ.co.jp/03ncpr/documents/document_pdf/03nc_sdgs.pdf（閲覧日：2021年11月29日）

文部科学省（2015）「新しい学習指導要領等が目指す姿」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/attach/1364316.htm
（閲覧日：2021年11月29日）

文部科学省（2016）幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm（閲覧日：2021年11月29日）

文部科学省（2017a）「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_001.pdf（閲覧日：2021年11月29日）

文部科学省 (2017b) 「中学校学習指導要領 (平成 29 年告示)」

https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf (閲覧日 : 2021 年 11 月 29 日)

山本崇雄 (2021) 「NEW CROWN と SDGs を融合した新しい授業の提案」

https://tb.sanseido-publ.co.jp/03ncpr/documents/document_pdf/03nc_sdgs.pdf (閲覧日 : 2021 年 11 月 29 日)

Sachs, J., Kroll, C., Lafortune, G., Fuller, G., Woelm, F. (2021). The Decade of Action for the Sustainable Development Goals: Sustainable Development Report 2021. Cambridge: Cambridge University Press.

<https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopment.report/2021/2021-sustainable-development-report.pdf> (閲覧日 : 2021 年 11 月 29 日)

Seth Borenstein, “Code red: UN scientists warn of worsening global warming,” AP News, 10 Aug 2021. <https://apnews.com/article/asia-pacific-latin-america-middle-east-africa-europe-1d89d5183583718ad4ad311fa2ee7d83> (閲覧日 : 2021 年 11 月 29 日)

OECD (2018) “The future of education and skills: Education 2030”

[https://www.oecd.org/education/2030/E2030%20Position%20Paper%20\(05.04.2018\).pdf](https://www.oecd.org/education/2030/E2030%20Position%20Paper%20(05.04.2018).pdf) (閲覧日 : 2021 年 11 月 29 日)

United Nations (2019) “The 17 Goals” <https://sdgs.un.org/goals> (閲覧日 : 2021 年 11 月 29 日)

United Nations Environment Programme. “Our planet is drowning in plastic pollution” <https://www.unep.org/interactive/beat-plastic-pollution/> (閲覧日 : 2021 年 11 月 29 日)

資料

NEW HORIZON English Course 1-3 (2021) 東京書籍

Here We Go! ENGLISH COURSE 1-3 (2021) 光村図書

NEW CROWN English Series 1-3 (2021) 三省堂

SUNSHINE ENGLISH COURSE 1-3 (2021) 開隆堂

ONE WORLD English Course 1-3 (2021) 教育出版

BLUE SKY English Course 1-3 (2021) 啓林館

Abstract

New Junior High Textbooks and Sustainable Development Goals: How They Address the 17 Goals

Atsuko Sonoda

Unanimously adopted by United Nations member states, the 17 Sustainable Development Goals (SDGs) should be achieved not only by adults currently supporting politics and the economy but also by children who will be responsible for the future. This study will explore how and to what extent SDG themes are incorporated into the content of the certified textbooks issued in April 2021 in response to the new teaching guidelines. In these 18 textbooks, all reading materials and listening or communication tasks were checked and coded against the SDG guidelines. The theme most frequently addressed was Goal 16 *Peace and Justice*, the former of which (pacifism) is also emphasized in Japan's Constitution. The least frequently addressed were Goals 3 *Good Health and Well-being*, Goal 5 *Gender Equality*, and Goal 7 *Affordable and Clean Energy*.